

ラクナ梗塞

ラクナ梗塞は脳のごく細い血管が動脈硬化を起こして詰まった結果、生じる脳梗塞です。「ラクナ」とは小さな空洞という意味で、ラクナ梗塞は直径 15mm 未満と定義されていますが、小さな梗塞ですので無症状のこともあります。一方で、ろれつが回らなくなったり、半身の運動まひなどの症状が起こることもあり、梗塞が小さいからといって侮ることはできません。診断は CT や MRI 検査でおこないます。

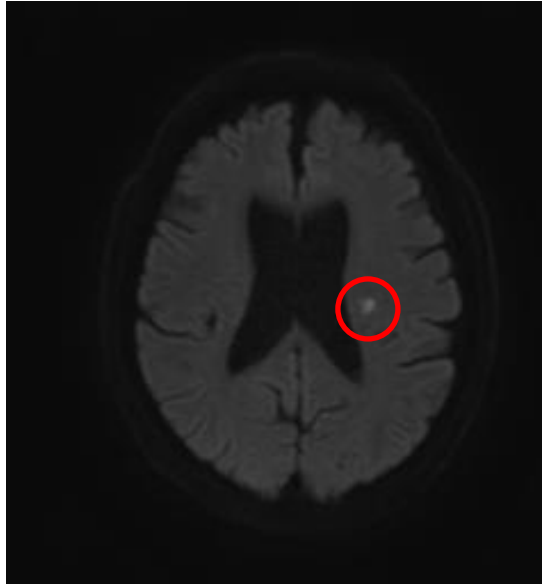


図. 頭部 MR 検査の拡散強調画像（赤丸部分が病変）

➤ 頻度や原因はどのような？

日本では、脳梗塞の中でおよそ 30% を占めます。原因としては高血圧が最も重要であり、他には糖尿病、脂質異常症、喫煙が挙げられます。予防にはこれらの管理が大切です。

➤ 治療はどのような？

症状が出て 4 時間半以内でしたら、条件次第で血栓溶解療法といって、血管に詰まった血栓を点滴で溶かす治療を受けられますので、一刻も早く来院いただくことが大切です。それ以外の治療は抗血小板薬が中心です。急性期にはアスピリン（バイアスピリン[®]）やクロピドグレル（プラビックス[®]）、シロスタゾール（プレタール[®]）の内服、あるいはオザグレルナトリウム（カタクロット[®]、キサンボン[®]）の点滴が行われます。